

会議録

会議の名称	平成26年度 第2回 西東京市地域公共交通会議
開催日時	平成26年5月21日(水曜日) 午前10時から正午まで
開催場所	防災センター 講座室1
出席者	委員：稲垣委員、関根(康)委員、高橋委員、畠山委員、菱刈委員、町田委員、松本委員、若林委員 代理出席：土屋様（関根(肇)委員代理） 事務局：小貫主査、乙幡主事、岩見主事 傍聴者：なし
議題	議題1 西東京市生活交通改善事業計画（UDタクシー）について 議題2 はなバスの乗降調査及びアンケート調査について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1-1 パブリックコメントによる市民等の意見 資料1-2 西東京市生活交通改善事業計画（案） 資料2-1 西東京市コミュニティバスの乗降調査及びアンケート調査について 資料2-2 はなバスに関する利用者アンケート（案） 資料2-3 はなバスに関する市民アンケート（案）
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

事務局：
議題及び配布資料の確認

会長：
開会宣言
西東京市地域交通会議設置要綱第6第2項に規定する定足数(委員の過半数)を満たしていることを報告

「会議の公開について」

会長：

議事に先立ち、会議の公開についてお諮りする。当会議は、西東京市地域公共交通会議設置要綱第7の規定により、会議録も含め、原則公開となっているが公開でよろしいか。

(全員賛成)

会長：

それでは、本日の会議については原則どおり公開とする。

議題1 西東京市生活交通改善事業計画(UDタクシー)について

会長：

議題1「西東京市生活交通改善事業計画(UDタクシー)について」、事務局から説明を求める。

事務局：

4月15日から5月15日まで生活交通改善事業計画(案)のパブリックコメントを実施し、1名1件の意見があったことを報告。しかし、ユニバーサルデザインタクシー導入の意見でないことから、西東京市生活交通改善事業計画への反映はしないことを報告。

これらの状況を踏まえ、資料1-2「西東京市生活交通改善事業交通計画(案)」を作成したが前回の地域公共交通会議で示した案と変更点はなく、本会議にて同意を得た後、国土交通大臣へ申請することを報告。

会長：

事務局から説明のあった西東京市生活交通改善事業計画(ユニバーサルデザインタクシー)について、質問・意見はあるか。

○委員：

例年だと補助対象事業の募集はゴールデンウィーク明けから6月までが期間だと思う

が本年度の募集はもう終わったのか。

○事務局：

今年度については、これから募集となるが例年と違い年1回の募集となっている。ただ、1回の募集ということで募集期間が多少長くなるとの事である。

○委員：

UDタクシーの導入により市民がメリットを受けられるようにするため、資料1-2の3(2)事業の効果に、導入効果をより高めるため、様々な機会や市ホームページでの掲載を通じて、UDタクシーの周知・啓発を行っていく。と書いてあるが、UDタクシーを必要とする人が利用できるような方法というものはあるのだろうか。

事務局：

利用希望者がタクシー会社に電話し予約をするという方法以外に、駅前広場で待機しているUDタクシーに乗車する方法が考えられる。UDタクシーが増えることにより交通弱者が外出する機会が多くなると考えている。

会長：

他に質問はないか。無いようであれば、「西東京市生活交通改善事業交通計画(案)」を諮りたいと思う。本案に同意する者は挙手を願う。
全員が同意したため、本案で国土交通大臣へ申請する。

議題2 はなバスの乗降調査及びアンケート調査について

会長：

次に、議題2「はなバスの乗降調査及びアンケート調査について」、事務局より説明を求める。

事務局：

本調査の目的、バス乗降(OD)調査、所要時間調査、利用者アンケート調査、市民アンケート調査の概要・方法を説明。

会長：

事務局の説明に関して、質問・意見はあるか。

○委員：

OD調査では、地上員の配置は考えているのか。

事務局：

考えていない。

○委員：

混雑時にはやむを得ず調査員が降車しなければならないこと、一旦降車したらもう一度乗車することも不可能になることも考えられる。そのため、乗務員がアンケートを回収しその後地上員に渡す方法があってもいいのではないか。

事務局：

調査員が降車することは想定していない。積み残しが発生した場合でも調査員は車内にいることとしている。調査員が降車した場合、正確な調査ができないためである。なお、雨天の場合積み残しが多く発生することが予想されるため、そのような天候の日には実施しない。

また、調査を実施するかどうかは前日に判断し、バス事業者に連絡する。

○委員：

昨年8月の料金改定に合わせて利便性の向上を図るためICカードを導入したが、その効果を問う質問があってもいいのではないか。

また、定時性を確保してほしいとの要望を聞いたことがあるため、バスロケを導入していない第1・2・3・5ルートへの導入についての質問も考えた方がいいのではないか。通信費はどれくらいかかるのか。

○委員：

一機1か月2,000円くらいである。

○委員：

はなバスに乗り遅れたと思いタクシーを呼んだが、直後にはなバスが到着したという話を聞いたことがある。

遅れているということが分かっているならばバスが来るまで停留所で待機するのに。という話も聞いたことがあるため、バスロケを導入する必要があるのかどうかを質問を加えるべきである。

また、はなバスの料金を路線バスと同じ値段まで上げた場合、シルバーパスやバス特を利用することは可能になるのか。シルバーパスやバス特が利用できることにより利便性も向上できるのではないか。

事務局：

バスロケに関しては、昨年度も導入を検討したがICカード導入とバスロケ導入を同時期に実施すると多大なコストがかかるという理由から見送った経緯がある。

路線バスと同じ料金にすることに関しては、今回の消費税増税に伴う運賃改定は実施しなかった。ただし、次回消費税の見直しがあるときに、路線バスと同じ料金にする事も検討したい。

シルバーパスに関しては、都条例の中でコミュニティバスはシルバーパスの対象外であると書かれているため、仮に路線バスと同じ料金に設定したとしても、困難である。

会長：

ICカード導入の評価、定時性についての評価を問う設問の追加を検討していただきたい。

○委員：

利用者アンケート問1の年代についてだが、高齢者をどう定義するかにより、年齢の区切り方が変わると思う。アンケートでは60歳代、70歳代で区切っているが、前期高齢者、後期高齢者の人数が把握できる様に60歳～64歳、65歳～74歳、75歳以上で区切ってもいいのではないか。

職業の学生・生徒・児童はまとめてもいいのではないかと。

特に高齢者にとって、通院は見舞いよりも重要度が高いため、外出目的の4.通院・見舞いを分けた設問が良い。

問2に運行維持のため、全ルートで年間約8,000万円を市がバス会社へ補助を行っているとしてあるが、「1乗車あたり〇〇円」のような表記の方が市民・利用者にはわかりやすいのではないかと。

(4)2.に「適正な運賃であれば…」と書いてあるが、なにをもって適正な運賃というのかが分かりにくいと思う。

問4に関してだが、バス停の位置や運行経路など物理的な側面について問う設問が多い印象があり、運転士の対応などソフト面について問う設問が少ないように感じる。

問5(1)でルート別に変更希望を聞いているが、ルートマップをアンケートに載せたほうが答えやすいのではないかと。ルートマップを載せることで回収率も上がり、正確な回答を得ることができると思う。

(4)だが、この設問だと単一回答なのか複数回答なのかわかりづらい。

事務局：

問5(4)については、経由地が増えた場合、所要時間が今よりもかかるため、運行本数が減る可能性があることを利用者・市民に意識してほしいと思いついた。

○委員：

この設問だと〇分以内であれば所要時間がかかっても構わないというように複数の設問に該当する答え方も考えられるため、設問の表現を工夫したほうが良いと思う。

前回の調査と比較できるような設問になっているのか。

事務局：

基本的に前回の調査を踏まえた設問となっている。

○委員：

市民アンケートの問1最寄駅について問う設問だが、最寄駅とふだん利用している駅が異なる市民もいるため、ふだん利用する駅も質問に追加すべきである。

○委員：

利用者アンケート問3(2)、市民アンケート問7(2)に「路線バス」という選択肢を追加してほしい。

○委員：

他市のコミュニティバスでは、時刻表を00分、30分のようにわかりやすく設定しているところもある。ルート見直しを機にわかりやすい時刻表にすることはできないか。

事務局：

わかりやすい時刻表を設定しようと検討したが、車両の共用や回送運転を行っていること、また、00分、30分のようなダイヤを設定すると待機時間が増加し便数が減るため、ダイヤより便数を優先している。

○委員：

武蔵野市のコミュニティバスは10分、15分のようにわかりやすい時刻表であるが、道路状況やバス停間隔も異なるため、どこかで無理をしながら運行しなければならない状況となっている。

○委員：

時刻表の把握方法を設問に追加してはどうか。

利用者・市民に、はなバスの利用促進のアイデアを問うのもいいかもしれない。

路線バスとの乗り継ぎを問う質問や、車内放送で乗り継ぎ案内をしていると思うがその効果を問う質問を追加してはどうか。

市民アンケートの抽出方法についてだが、配布する地域の人口比に合わせて配布枚数を調整すべきである。

事務局：

町丁別ごとに抽出率をそろえたいと考えている。また、1世帯あたり1名を抽出するように設定する。

○委員：

なるべくはなバス利用者が回答するようにと、アンケートに記載するなど工夫したほうがいい。

事務局：

無作為であるため世帯主のみが抽出されるという事ではない。

○委員：

調布保谷線が開通したことにより、路線バスの乗客数は増えたのか。

○委員：

多少は増えたと思う。

○委員：

調布保谷線の開通により定時性は確保されるようになった。

会 長： いただいた意見はなるべくアンケートに反映させるよう指示する。

議題3 その他について

会長：

議題3その他について事務局から説明を求める。

事務局：

はなバスの乗降調査及びアンケート調査の結果については、8月を目途に報告できればと考えている。

会長：

全体を通して、何か意見は無いか。

○委員：

アンケート調査の結果を示す際に、はなバスの路線図だけでなく、路線バスの路線図も併せた地図を作成するとわかりやすいのではないか。

事務局：

了解した。

会長：

他にあるか。無いようであれば、これをもって本日の議事を終了する。

会長：

以上で、本日の日程はすべて終了する。

本日の会議の会議録については、事務局にて作成を指示する。

これをもって、第2回 西東京市地域公共交通会議を閉会する。

以上